

巻頭言

CNCP を楽しい活動にしよう

(特非) シビル NPO 連携プラットフォーム 理事
代表理事 山本 卓朗



明けましておめでとうございます。

オリンピックまであと3年、日本中がさらに忙しくなるような気がします。特にプロジェクトを担当する建設界などは、私の古巣である JR を見ていると目一杯の仕事に追われているようです。

さて自分自身が75歳を過ぎ、高齢者の立場で周りを見ているせいかもしれませんが、一段と高齢者の姿が目立ちますし、マスコミに取り上げられる報道も高齢者関連が多くを占めるようになってきました。そして若手に過度なロードがかかっている世の中、私を含めいわゆるアクティブシニアの社会活動参画が強く求められていると思います。しかしながら、CNCP は土木学会 100 周年事業の一環としてスタートしてから既に3年になる NPO ですが、活動の輪が思ったほど広がっていないことが大きな悩みです。まずはより多くの土木系（シビル系）の皆さんの参加を促し、さらにその輪を一般社会へと広げていきたいと念じています。その課題として2点お話しします。

1. 今の CNCP 活動は、果たして楽しい活動であるか？

こういう書き方は穏当を欠くと思われるかもしれませんが、稼ぐための会社勤めであっても、毎日がうんざりする楽しくない仕事環境では、転職が頭をよぎるかもしれません。ましてや無給で生きがいを求める活動であれば、“楽しい活動”になっているかどうかは大変重要だと思います。別に歌ったり踊ったりするのが楽しいわけではない、至極真面目な取り組みを如何に楽しくやるかという工夫が必要であるということです。そういう目で今までの CNCP 活動を振り返ってみると、活動のやり方が真面目すぎて硬いのではと思うのですが如何でしょう。

2. CNCP、シビル NPO 連携プラットフォームって何？ そもそもシビルって何？ という疑問に答えていないのでは？

長年土木屋をやっていると、土木を“シビルエンジニアリング”というのは当たり前ですが、昼食を“ランチ”と言うのが如く、誰でも知っていると思うのは大間違いですね。シビル CNCP などの言葉を広め、社会と繋ぐ努力をしてこなかったことを CNCP の名付け親の一人として猛省しています。昨年 CNCP アワードの第一回を行ってその思いを強くしました。担当の皆さんが苦心して作ったチラシについて“わからん！！”という審査委員の皆さんの辛口（いや、親切な助言！）に感謝です。今年早々に、広報やウェブなど情報ツールに詳しい方に参加してもらい、“広げる繋ぐワーキング”を始めることにしました。この CNCP 通信についても新鮮な視点で議論して頂く所存です。

今年も課題山積ですが、皆さまのご支援よろしく願いいたします。